

平成28年度熊谷市立富士見中学校卒業式式辞

日増しに暖かさを増し、花の便りも聞こえ始め、新しい春の訪れが感じられます。

今日の佳き日に、熊谷市長様、熊谷市教育委員会様、地元市議会議員三浦和一様、野沢久夫様をはじめ、多数のご来賓の方々のご臨席を賜り、熊谷市立富士見中学校第70回卒業式が挙行できますこと厚くお礼申し上げます。

富士見中学校を巣立つ258名の皆さん、ご卒業おめでとうございます。そして、長い間、陰に陽にいろいろとご心配され、ここまで立派に育て上げられた保護者やご家族の方々のお気持ちは、いかばかりでありましょう。ご卒業おめでとうございます。

私が皆さんと富士見中学校で過ごした時間は一年間でしたが、皆さんから多くの驚きと感動をいただきました。

学習面では、全国学力学習状況調査で全国平均を大きく上回る結果を挙げてくれました。

生徒会活動では、本部役員の皆さんが主体的に活動してくれました。自主的に始めた熊本地震での募金活動、下校風景を撮影し、全校生徒に問題定義した生徒集会、また、学校歯科保健コンクール、5年連続埼玉県一を獲得した保健委員会の活動を代表とする専門委員会、どれも富士見中学校らしい質の高いものでした。

学校行事では、実行委員会が中心となって創り上げてくれました。3年生のパワーを見せ付けた体育祭、圧倒的な合唱の力を発揮した音楽会、どの行事でも1、2年生に3年生の力を示し、目標となってくれました。

部活動では、水泳部のメドレーリレー2年連続埼玉県一での全国大会出場、音楽部のTBSこども音楽コンクール東日本優秀演奏発表会出場等輝かしい成績を挙げてくれました。

11月12日に開催した富士見中学校70周年記念式典、塚本登偉（つかもととうい）君原案作成の富士見中キャラクター「ふじミル」の誕生、今では富士見中学校のシンボルとしてしっかりと定着し、今、全員の胸に輝いています。生徒会本部役員が進行してくれた70年の歩み、そして、3人の先輩によるコンサート、特に最後に全員で歌った「翼をください」は、今でも私の心の中に響いています。

私はこの一年、目指す生徒像である「自立・協働・貢献」について皆さんに話してきました。最後にもう一度お話しします。

「自立」とは皆さん一人一人が自ら考え、判断し行動するという事です。

皆さんが社会に出て活躍する十数年後は、現在ある職業の60%が無くなり、日本の労働人口の約半分が人口知能AIに代わるとも言われています。こういった時代に生きる皆さんは、与えられたことを正確にこなしているだけでは人工知能にすべての仕事を奪われてしまいます。

自ら考え判断し、行動する力を身に付けられることが必要です。

「協働」とは仲間と話し合い、協力し課題を解決できるということです。

皆さんは、これからの生活の中で答えの見つからない多くの課題に出会うかと思えます。そういったときに、仲間とじっくり話し合い、できる限りみんなが納得できる答えを見つけるようにしてください。人間一人の力は非常に小さいものですが、仲間と力を合わせ、話し合い取り組めば大きな力になります。

「貢献」とは他の喜びを自分の喜びとできるということです。

皆さんに一年前の始業式で「十年後の私」について書いてもらいました。一番多かった内容は「十年後私は人の役に立つ職業に就いていたい」でした。皆さんは自分の目指す職業につくために中学校で学び、これからも学びつづけます。地域社会、いや、世界のために貢献できる人になってください。

終わりに、ご臨席を賜りましたご来賓の皆様を重ねてお礼を申し上げるとともに、本校教育の一層の充実、発展のために今後ともご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、三年間、様々な面でご支援、ご協力をいただきました保護者の皆様に改めて心より感謝とお祝いを申し上げ、式辞とさせていただきます。



平成29年3月16日
熊谷市立富士見中学校長 松本文利